

議案第 24 号

令和 6 年度板橋区登録文化財の諮問について
上記の議案を提出する。

令和 6 年 7 月 25 日

提出者 板橋区教育委員会教育長 長沼 豊

令和 6 年度板橋区登録文化財の諮問について
板橋区文化財保護条例第 4 条第 2 項及び第 13 条第 3 項並びに第 19 条に基づき東京都板橋区文化財保護審議会に諮問する。

記

1 諮問内容

板橋区文化財として新たに登録・指定することについて（3 件）

（1）有形文化財（典籍）

中台延命寺所蔵大般若経 附経櫃・経箱

（2）有形文化財（歴史資料）

十度ノ宮

（3）有形文化財（考古資料）

松月院境内遺跡第 1 地点出土中世遺物

（提案理由）

上記案件が、板橋区文化財保護条例第 4 条第 1 項に規定する登録文化財、あるいは、同条例第 13 条第 1 項に規定する指定文化財のいずれかに該当すると思われるため、同条例第 4 条第 2 項及び第 13 条第 3 項並びに第 19 条に基づき諮問する。

令和6年度板橋区文化財保護審議会への諮問概要

1 新たな文化財の登録・指定

番号	名 称	所在地または居住地	所有者・ 管理者または保持者	種 類	内 訳	来 歴 ・ 内 容 及 び 諮 問 理 由
1	中台延命寺所蔵大般若経附経櫃・経箱（なかだいえんめいじ しょぞう だいはんにゃきょう つけたり きょう ひつ・きょうはこ）	板橋区中台 3-22-18	宗教法人延命寺（えんめいじ）	有形文化財（典籍）	経典600帖・経櫃3合・経箱60点	<p>本資料は、中台延命寺（なかだいえんめいじ）に伝わる「鉄眼版大般若波羅蜜多經六百卷（てつげんばん だいはんにゃはらみったきょう ろっびやくかん）」（通称「大般若経」）と本資料を収めていた収納箱からなる。</p> <p>資料の成立は江戸時代後期と考えられ、形状は折本（おりほん：蛇腹状に折りたたんで1冊の本の形にしたもの）である。令和になり修理が行われ、表紙や収納箱が新調され、虫食いの箇所も修理されている。</p> <p>本資料の最大の特徴は、中台延命寺およびその周辺地域の人々から奉納された「大般若経」ということである。表紙を開いた最初の頁に、出資者（施主）の記録が書かれている。記録の内容は、「〇〇村 □□□□（出資者名）」「△△村中」など、その巻の出資者の居住地と個人名・複数名、もしくは村全体で出資した場合は村名が書かれている。出資者の地域的な広がりには、中台延命寺を中心に半径4～5kmである。地名を例に挙げると、【板橋区域】中台・蓮沼・小豆沢・前野・志村・徳丸・赤塚・上板橋など【北区域】赤羽・稲付・十条など【練馬区域】石神井・練馬・鷺宮など【埼玉県域】戸田・新倉などが確認されている。</p> <p>本資料とその出資者の情報から、中台延命寺を信仰する地域・仏教文化の広がりを明らかにする貴重な歴史資料である。</p>
2	十度ノ宮（じゅうどの みや）	板橋区舟渡 2-18	舟渡氷川神社（ふなど ひかわじん じゃ）	有形文化財（歴史資料）	1基	<p>「十度ノ宮」が祀られている舟渡氷川神社は、戦後に誕生した舟渡町によって設立され、昭和41年（1966）に神社庁に承認された神社である。</p> <p>当社は、19世紀前半の文政年間に成立した『新編武蔵風土記』の蓮沼村の氷川神社の記述に、「金剛院持ニテ、古へ村内西南ノ方ニアリシガ、数度ノ洪水ニ押流サレ、今ノ処ニ流寄コト十度ナリシカバ、爰ニ塚ヲ築、榎ヲ植テ社ヲ移ス、土人今モ十度ノ宮トモ称セリ」とあり、江戸時代から荒川氾濫原に展開する舟渡地域における洪水被害の歴史を物語る遺構として知られていた。</p> <p>現在は、笠塔婆型の石祠として残され、正面には（梵字）と「奉修造立氷川大明神御宝前」の銘文が、左面には「万治二己亥年六月十五日」の1659年にはその存在が想定される。右面には「寛保三癸亥年十二月吉日 武劔豊島郡蓮沼村 別当金剛院」とあり、1743年には真言宗の金剛院の管理となっていた。</p> <p>現在地に移る前は、舟渡二丁目8番の早部ガソリンスタンド前にあったが、昭和39年に境内に遷された。</p> <p>「十度ノ宮」は、江戸期以降の荒川の氾濫によって失われた、舟渡地域の歴史を物語る貴重な歴史資料である。</p>
3	松月院境内遺跡第1地点出土中世遺物（しょうげつ いんけいだいいせきだいいちちてんしゅつどちゅうせいぶつ）	赤塚8-4-9（出土地）	板橋区教育委員会	有形文化財（考古資料）	出土遺物計42点（板碑24点、宝篋印塔塔身1点、宝篋印塔基礎8点、五輪塔火輪2点、陶器7点）	<p>松月院境内遺跡は、北に荒川、南から東に前谷津川、西には白子川と三つの河川に囲まれた東西に長い台地上に位置し、中世期は赤塚郷内にあたる。萬吉山宝持寺（まんきつざんほうじじ）松月院は、もとは真言宗の寺院であったものを千葉胤胤（これたね）が曹洞宗に改宗させ、松月院と改めたといわれている。現在も墓地の一角に千葉氏一族の墓と伝えられる宝篋印塔（ほうきょういんとう）が数基所在している。</p> <p>宗教法人松月院が計画していた書院と庫裏の建て替え工事に伴い、昭和59年（1984）から昭和60年まで、発掘調査が実施された。発掘調査で確認された中でも、特に中世期の遺構・遺物としては、地下式坑2基と、板碑や台座を伴うピット（100号）1基、板碑が集中する板碑遺構3基が発見された。</p> <p>100号ピットからは、宝篋印塔台座及び基礎、五輪塔、板碑等の石塔類の一部が集中して出土している。また、1号板碑遺構からは、発見時の状況から、ピット状の掘り込みの中に陶器甕の破片が散布し、その最下部に板碑を埋納した可能性が考えられる。これらの出土遺物は、一括資料としても貴重な事例であると評価される。</p> <p>当該資料は、板橋区の中世期のあり方を究明するうえで、貴重な考古資料である。</p>

【参考】〈資料画像〉令和6年度文化財保護審議会への諮問概要

案件1 中台延命寺所蔵大般若経 附経櫃・経箱

「大般若経」



経櫃・経箱



案件2 十度の宮

外観



(内部) 石祠



案件3 松月院境内遺跡第1地点出土中世石造物

100号ピット 遺物出土状況



1号板碑遺構 遺物出土状況



板橋区文化財保護審議会

東京都板橋区文化財保護条例(昭和 58 年 3 月 18 日東京都板橋区条例第 16 号)
に基づき、令和 6 年度板橋区文化財の登録等について下記のとおり諮問する。

令和 6 年 8 月 7 日

東京都板橋区教育委員会

記

- 1 新たに文化財登録・指定するもの 3 件
 - (1) 有形文化財(典籍)
中台延命寺所蔵大般若経 附経櫃・経箱
 - (2) 有形文化財(歴史資料)
十度ノ宮
 - (3) 有形文化財(考古資料)
松月院境内遺跡第 1 地点出土中世遺物